

# OSHMSの導入・定着による職場環境等の改善対策の概要

甲田茂樹, 佐々木毅

## 【背景】

労働安全衛生マネジメントシステム(以下、OSHMSとする)を導入・活用することによって労働災害発生件数の減少、生産性やサービスが向上することが期待されているが、中小規模の事業場ではOSHMS導入自体が困難であるといわれている。

## 【目的】

地方自治体を事務系職場だけでなく、清掃、学校給食、保健、福祉、医療、消防、上下水道など多様な業種を抱える中小規模の職場の集合体とみなし、そこにOSHMSを導入・定着することで、職場の安全衛生活動を活性化することができるのか、労働者の安全・健康指標を向上することができるのか、縦断的に追跡することを目的とした。

## 【対象】

以前より積極的な安全衛生活動を日常的に行ってきた大牟田市(2008年度現在,人口約13万人,正規・非正規職員数約2,000人)を対象とした。大牟田市の安全衛生委員会は部署や仕事内容を考慮して10ヶ所設置され、別にVDU(Visual Display Units)委員会も設置されている(図1)。

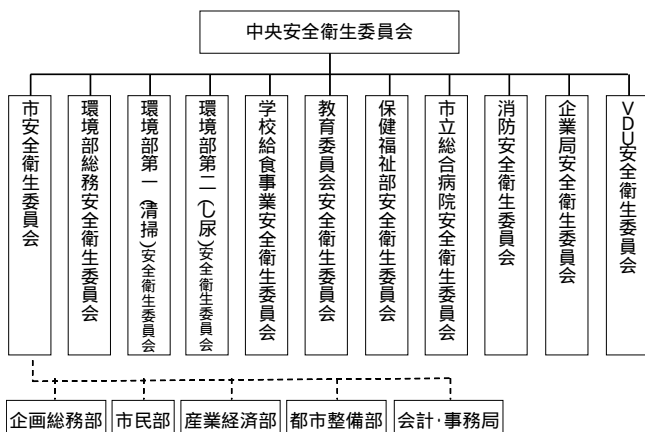


図1. 大牟田市の安全衛生委員会の設置状況

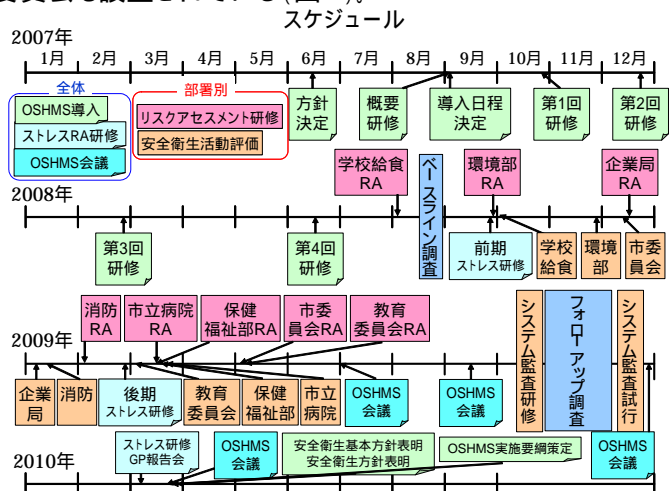


図2. OSHMS導入とRA研修の実施スケジュール

## 【内容】

図2に本研究で実施したスケジュールを示す。

2007~8年度に、10の安全衛生委員会からそれぞれ委員2人と事務局1人の計3人(以下安全衛生委員会関係者)に出席してもらい、OSHMS概要研修を1回と導入研修を4回実施した(表1、この詳細な内容がHP公開資料1「職場に提供したOSHMSの導入研修内容」)。

2008~9年度には、各職場の安全衛生上の課題を個別に抽出・評価しそれらの対策を自らで考えるようにするためのリスクアセスメント研修(以下、RA研修とする)を、安全衛生委員会関係者や管理監督者等を対象として10の安全衛生委員会ごとに実施した(図2)。RA研修では、まず職場巡視を行いながら、照度、気温、湿度、騒音、酸素や二酸化炭素、一酸化炭素濃度などを測定するとともに、整理・整頓具合や道具等の配置

表1 OSHMS概要・導入研修の内容

種類	内容
概要研修	OSHMSの概要や必要性と導入事例
2007年9月	
第1回導入研修	労働安全衛生マネジメントシステムと小さなPDCAサイクル/安全衛生組織と安全衛生方針/アクションチェックリストを用いた実習(清掃工場)
2007年10月	
第2回導入研修	自らの職場のリスクアセスメント実施の報告/安全衛生目標と年間計画の立て方/実施と記録/アクションチェックリストを用いた実習(事務系職場)
2007年12月	
第3回導入研修	安全衛生管理規定の作成/内部監査の進め方/アクションチェックリストを用いた実習(化学物質取扱職場)
2008年2月	
第4回導入研修	自らの職場でのメンタルヘルス対策の作成/今後のアクションプランの作成
2008年6月	

や作業台の高さといった人間工学的要因等に関わる各職場の職業リスクを写真撮影した。その後、リスクアセスメントに関する講義を行い、リスクアセスメントの方法について理解を深めた上で、職場巡視で収集した情報や質問紙調査結果をもとに、グループワークでリスクアセスメントの実習を行った。その活動の中で作成されたものの1つが「学校給食安全作業マニュアル」(図3、HP公開資料2)であり、更に、全安全衛生委員会が共通の課題を見出し、委員会横断的のワーキンググループを組織して作成したのが「草刈作業の安全作業マニュアル」(図4、HP公開資料3)である。また、作業環境以外の作業編成や人間工学的要因等といったストレス要因を対象としたリスクアセスメント研修も実施し、その成果として「職場環境等の良好/改善事例集」にまとめた(図5、HP公開資料4)。以上のようにOSHMS導入作業が進み、事業者による安全衛生方針が表明されるとともに、OSHMS実施要綱が策定され、2010年3月末でOSHMSの導入が完了した。



図3. 学校給食安全作業マニュアル



図4. 草刈作業の安全作業マニュアル



図5. 職場環境等の良好/改善事例集

【効果指標の変化】

公務災害発生件数は、OSHMS導入に取り組む以前は50~70件/年で推移しており平成18年度で55件であったが、OSHMS導入を開始した平成19年度は41件、RA研修を開始した平成20年度は28件と2年で半減した(図6)。なお、平成21年度は36件と微増したが、これはほぼ非正規職員の公務災害件数増加に由来する。

私傷病などによる休業者数の推移もまた長期(28日以上/月)、短期(28日未満/月)とも、公務災害発生件数と同様に減少傾向であった(図7)。特に、メンタルヘルス不全による長期病休者数は平成18~19年では30件前後であったものが平成21年度には20件をわずかながら下回った。

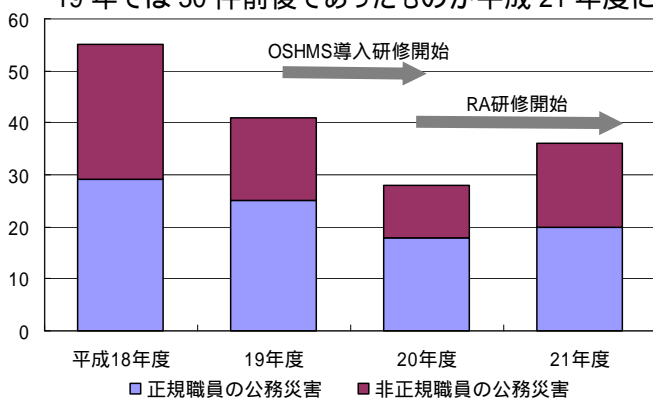


図6. 公務災害発生状況の推移

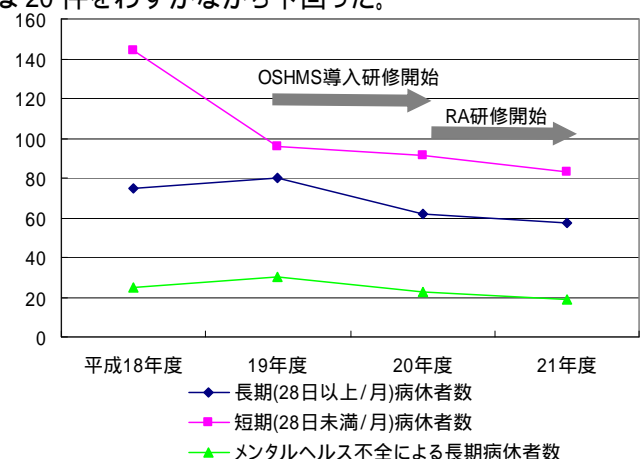


図7. 私傷病などによる休業者の発生状況の推移

【総括】

OSHMSの導入作業を進める過程で、「学校給食安全作業マニュアル」「草刈作業の安全作業マニュアル」「職場環境等の良好/改善事例集」などが作成されたことから職場の安全衛生活動は活性化されていると見られ、公務災害や病休も減少するなど、労働者の安全・健康指標も向上した。OSHMSが定着していく今後もそれらの推移を観察してゆく。